

# 訪問言語聴覚士の方々のための講習会

長年、山梨県で訪問言語リハビリに携わっていらっしゃる平澤哲哉先生をお迎えして、4回行います。

講師 平澤哲哉先生の言葉：私は病院で働きながら地域での活動（失語症友の会、言語リハビリ教室など）を多く経験してきました。そこで辿り着いたのは『病院だけではことばは良くならない』と云うこと。入院中の療法は正に「訓練」であり、それはリハビリテーション（社会復帰、生活復帰）への準備段階です。そして、退院後に生き活きと生活していくためのリハビリテーションが始まると考えます。

**主な著書**：「失語症者、言語聴覚士になる」（雲母書房 2003/12）  
「失語症の在宅訪問ケア」（雲母書房 2005/10）  
「月間ブリコラージュ」（七七社）“地域に飛び出したST”、  
「訪問看護と介護」“日常ケアにおけるコミュニケーションのコツ”（医学書院 2005/05）  
「毎日新聞」障害者コラム“ことばを求めて”に連載。2005.1～3月（12回）

**開催日**：6月21日、7月26日、9月27日、10月18日

**時間**：午後2時から5時まで

**講習内容**：第1回「地域で言葉を失った人を支える」～言語聴覚士の役割とは  
第2回「言葉を紡いで心をつなぐ」～長期継続ケアの持つ意味は  
第3回「仲間作りから広がる生活」～言葉は決して一人では良くならない  
第4回「この道程が楽しみ」<訪問>言語聴覚士の仕事

**講習料**：10,000円（4回）

**定員**：15名（先着順）

**場所**：(株)言語生活リハビリセンター・グループ訓練室

**問い合わせ・お申込み**：(株)言語生活サポートセンター [gengoseikatsu@gengoseikatsu.com](mailto:gengoseikatsu@gengoseikatsu.com)

# 沼尾弘子の失語症のある方のための朗読会

自らも脳梗塞による失語症となり、テレビ、ラジオのアナウンサーとして現場復帰を遂げた沼尾ひろ子が主宰する朗読サークルです。

声を出す喜びを朗読を通して知っていただくために、自身の体験とアナウンススキルによる発声法、滑舌体操をプログラムに取り組んでいます。

**月2回、6ヶ月の受講で最終月に朗読劇を発表します。**参加することによって体験者どうしの交流も図り、発表する目標を持つことで作り上げる連帯感、達成感が得られます。なにより楽しむことが失語のリハビリにつながると期待されます。

**主な著書**：「ナレーターなのに失語症になっちゃった」（エスコアール 2014）  
「好かれる声の磨き方」（日本実業出版社 2014）

詳細については「NPO 法人脳梗塞患者の自立を支援する会ホームページ」を御覧ください。

<http://noukousoku.org/roudoku.html>